

ダムと節水

私の住む沖縄では雨量が少なく川が短い地理的条件の影響などで深刻な水不足が起きている。私は家族とご飯を食べているときに、水不足による三十年以来の給水制限が想定されるというニュースをみた。給水制限は各家庭に送られる水の量を強制的に減らすことができる。そのため県民の生活に大きく影響を及ぼしていた。また病院や、学校給食では断水による献立変更が余儀なくされていたり、水は使えないので給食の皿もすぐに捨てられるプラスチックの容器になったりとたくさん影響が出ていた。それを見て私は水不足対策の1つであるダムについて調べた。沖縄県には十一つのダムがある。去年の沖縄ではダムの貯水率は平均値の74.9%を30ポイント近く大幅に下回り、十年間で最低の43%台を更新した。私は40%台と、貯水率の低さにとっても驚いた。その貯水率の低さだったら水も今まで通り使うことは到底できないだろう。そうなる三十年ぶりにあの苦しい断水生活が始まることになる。そこで私はどういう対策をしているのか調べた。県は水の安定供給を図るため関係機関と協力しながら治水や水を利用するための複数の機能を兼ね備えた多目的ダムなどの水源開発を推進してきた。その結果県内の水事情は大幅に改善された。現在の沖縄本島では9523万立方メートル、952億3000万Lの飲み水を貯めることがかろうになった。だが貯められる水の量には限界があり、ダムが満水でも雨が降らないと生活に欠かせない水はすぐになくなってしまふ。沖縄のホームページでも毎日32万4500立方メートルの水を使い続けると、約十カ月でなくなってしまう計算になると書いており、いくらダムにたまった水の量が多くても私たちが何の気なしに使ってしまったら水不足になり断水生活になってしまう。実際沖縄県では1日に1人が使う水の量は12Lバケツ約二十六杯分にもなる。そのために私は、暮らしに欠かせない水をダムに

沖縄県 豊見城中学校 三年 石垣 結愛

頼りつきりになるのではなく、節水など私たちが努力をして支えることが大切だと考える。例えば私たちが普段使用しているシャワーをたった一分短くするだけで500mlペットボトル約二四本分の12Lもの水量を減らすことができる。またトイレの大レバーを一回小レバーにすると500mlペットボトル約四本分の2L、食器を洗う時や手洗いをすると500mlペットボトル約十二本分の6L減らすことができる。私は一分と短い時間で大量の水の量を減らすことができることにとても驚いた。そして沢山の人が行動に移すことで沖縄県の水不足の改善に大きくつながると思った。だがこのことをどれだけの人が知っているのかということを考えると、もともとたくさんの人に節水による効果を知ってもらうべきだと思う。例えば、ポスターや、CMなどで節水の呼びかけを行うことで多くの人に知ってもらえるだろう。また、「沖縄ダム貯水率」で検索すると今日の貯水率を簡単に知ることができる。このように貯水率や節水のことについて理解をすることなどの一人一人の小さな工夫がとても大切だと私は思う。

私たちは雨など天気を操ることはできない。だから、天気は左右されず上手く対応していくことで私たちの大切な水資源の確保につながる。このことを多くの人に私は伝えていきたい。